福岡北ロータリークラブ10周年記念座談会

福岡北ロータリークラブ創立10周年を迎えるにあたって、創立に尽力した特別代表やパストガバナー、歴代会長、歴代幹事などにご参集頂き座談会を開いて、それぞれの思い出を語って頂いた。

全員にお集まり頂きたかったのだが、すでに物故された会長や退会をされた幹事もあり、加えて当日よんどころない所用のために出席ができない方々もあって、出席人数は司会者を含めて７人になってしまった。平成４年10月23日に開催した。

出席者は次の通りである。

平野桂樹（特別代表）
新家忠男（シニア、パストガバナー）
大塚嘉博（第６代会長、1989～90）
前田三男
（第10代会長、1992～在任中没）
上田謙太郎（第２代幹事）
灰田洋一（第４代幹事）
司会・葉山　孝（第10代副会長から第10代会長に就任）

なお、本座談会開催後、前田会長と平野シニア会員が死去され、さらに上田会員、灰田会員が退会された。福岡北ロータリークラブの歴史にも歳月の流れを感じ、万感の思いを禁じ得ない。

福岡北ロータリークラブ・誕生のいきさつ

司会　皆さん、お忙しいところをどうも。
まず、福岡北ロータリークラブ創設の経緯を、特別代表でありました平野先生より伺いたいんですが。

平野　福岡地区に新しいクラブを作ろうという動きは、中牟田さんがガバナーであった、昭和56、７年頃から起こったんです。
あの頃拡大カウンセラーというのがありまして、それを私がやっておりました。
そういう背景の中で、中央の委員会あたりで、福岡地区に新しいクラブを作るならどうしたらいいかということが論じられました。
そこで、人口とロータリークラブの会員の比率などから、福岡地区が一番最適だということになりまして、かねてからいろいろな資料等を提出していた私に、ガバナーの中牟田喜一郎さんが、「それでは平野さん、あなたが一つ、特別代表になって新しいクラブを作ってくれ」という展開になりました。
そして1982年11月20日、中牟田さんから、「貴殿を福岡市及びその周辺地区に新クラブを結成するための特別代表に委嘱します」という辞令を貰ったんです。
さて新しいクラブを設立するとなると、私は福岡城西ロータリークラブの会員だから、城西ロータリークラブをスポンサークラブにしなければならない。とすれば、城西ロ

ータリークラブの許可を得ないといけない。当時、向井先生という方が会長でしたが、まず、城西ロータリークラブに「新ロータリークラブの創立に関する合意書」を頂くよう、お願いしたんです。その頃、城西ロータリークラブは最高の人数で、114人ぐらいのクラブでした。会員数で南クラブに追い付き、追い越せと頑張っていた頃でしたから、ここで新しいクラブを作って会員数が減るのはまずいんじゃないかと、城西ロータリークラブの理事会の中で反対意見が出たものです。

しかし、いろいろな文章を見ていましたら、1983年から84年度迄の会長である、ウイリアム・E・スケルトンという方が、新会員を増やし、新クラブのスポンサークラブになるようにと強調しておられるのですね。その文章をよりどころに、城西ロータリークラブの理事会で「会員を増やすのは新しいクラブを作るのが一番いいのだ」と申し上げると、理事会も、「では認めよう」ということになったのです。

ところがご存じのように、城西ロータリークラブのテリトリーは、中央ロータリークラブのテリトリーでもあるわけです。そこで、中央ロータリークラブからも合意書をいただくことになりました。

この中央ロータリークラブは、新家さんが特別代表として作られたロータリークラブでしたから、新ロータリークラブの作り方のコツを新家さんから習って、中央ロータリークラブを下敷きにして、新クラブの結成を進めていったものです。

他にも多少の問題はありました。例えば福岡クラブは、福岡全市内が自分のテリトリーだという意識がありますから、同クラブの会員の中には、福岡クラブの合意書も必要じゃないかと考えている人もあるようでした。

しかし、福岡ロータリークラブには中牟田さんがおられましたから、この問題は中牟田さんが取りまとめて下さいました。

さて新しいクラブを作るとなると、活動の中心となるキーマンを作る必要があるので、いろいろ検討を進めたのですが、城西ロータリークラブの中で6人位、一緒に新クラブに移ってもいいという方が出て参りました。その方を中心にして、福岡北ロータリークラブというようなものを作ったら…という気持ちが固まりました。

そして、せっかく新しいクラブを作るなら、従来のクラブにない特徴を出そうと言うことになりました。

ここに新家さんもおられますが、私達は当時、ロータリークラブが少し贅沢になり過ぎているのではないか、という感じを持っていました。

例えば会社づとめの方が定年で会社を辞めて行かれますと、みんなロータリークラブを辞めてしまう。ロータリークラブにとって働き盛りの方が辞めてしまうのも、ロータリークラブの経費が大変だから…という話を聞きまして、それではおかしいではないかと思いました。

そこで一つ、質素で経費のかからない、しかし立派なロータリークラブを作ろうじゃないかと思ったわけです。

これは城西ロータリークラブからこちらへ移った方々すべてのお気持ちでした。

こうして福岡北ロータリークラブが生まれ

たわけですが、クラブの運営が始まってみるとやはり、例会や他のクラブとの付き合いなどにおいて、あまり貧乏たらしいクラブというのもどうかという不安もありまして、段々、経費もかさむようになりましたけど、発足当時の趣旨は、もう少し簡素化したロータリークラブを作ろうというのが我々の目標でした。

手づくりのクラブをめざして

司会　大塚さんはいかがですか？

大塚　私もチャーターメンバーで入れて頂いたんですが、新しい中身の個性を持ったクラブが生まれたということは、メンバーにとって感激でしたね。

安く運営しようという簡素化の理念は、浮いたお金を活動を充実させるために使おうという、「正味活動主義」ともいうべきもので、他のクラブに新鮮な印象を与えたんじゃないかと思います。

食事一つとりましても、ナイフ・アンド・フォークではなくて箸を使う食事で、いわば内容主義を反映していて、充実感をもって食事させて頂いております。メンバーにも大変良いインパクトを与えたんじゃないでしょうか。

司会　木曽さんが会長時代の幹事でいらっしゃる上田さん。当時の思い出話を一つ。

上田　私は最初、ロータリークラブとは何か分からずじまいに入ったのですが、最初の年の副幹事、２年目に幹事を仰せつかったんです。

この福岡北ロータリークラブは最初、事務局がなかったものですから、新入会員や退会者が出るたびに、Ｒ・Ｉから来た英文を、辞書を片手に翻訳するなど学生時代に返ったようでした。また、仕事途中にポケットベルが鳴りまして、「来週、例会変更のクラブはないか」など、いろんな電話がかかってきたものです。そこで、「事務局がないと大変だなあ。しかし、仰せつかった以上、何としてもやり遂げねば」ということで、やってきました。

事務局がないと、会長の会社の事務員さんなどを使うことになり、何人かの社員にご迷惑をおかけすることになります。それで困惑することもありましたが、平野先生や新家パストガバナーの最初の設立趣旨である、贅沢でない質素なロータリークラブという考え方には、今も賛同致しております。

平野　事務局を置くか置かないについては、私達も考えたんですよ。しかし、事務局を置かないと幹事がロータリークラブの仕事をよく覚えるんです。ロータリークラブに関しては精通するようになる。しかも経費の節減にもなるし（笑い）。

最初の年は、事務局は私のところにありましたが、２年目の上田さんの時は大変だったでしょうね。

それにもっと困ったことは、事務局がないと会長になり手がない。いろいろな人に会長を断られて、どうにかしなければなるまいということになったんですよ。

私達は昔、例会の月報や週報、統計なんか自分で作ったものでした。今は、もうそういう時代ではなくなりましたけど。

福岡北ロータリークラブも現在はいい事務局ができましたね。

司会　同じように事務局なしでやってこられた灰田さん。幹事の思い出をどうぞ。

灰田　ただ一言でいえば、やはり、大変だったですね。私が幹事やらせて頂いた頃は景気があまりよくなくて、本来の仕事が結構大変だった上に、ロータリークラブの仕事です。最初は、片手間でもやれるだろうとタカをくくっていたのですが、始めてみるととてもじゃないが片手間ですまん訳です。うちの事務所は女子社員がいないもので、細かな仕事をやって貰えない。また今、上田さんがおっしゃっていたように、英文の翻訳

にも困りました。工場から若い社員を呼んできて、これ翻訳しとけ…なんて、そういうことやっていましたけど。半分ノイローゼ気味でした。

司会　一番新しい会長である前田さんは、いかがですか。

前田　私はチャーターメンバーになるいきさつがちょっと変わっておりまして、実は、病気をしまして平野先生に命を助けて頂いて、退院してみたら、今度新しいクラブができると…。じゃあ、ということで平野先生のところへ行って、いろんな配慮を頂きながら現在までやって来たわけです。

ところで、事務局の問題ですけど、事務局の井上さんにいつまでもやって貰うという訳にもいくまいし、私もいろんな資料をひっくり返して見ました。そしていかに最初の方、灰田さんあたりが苦労なさったか、よく分かりました。

そこでやはり会長、幹事、各委員長を中心に全員が協力してことに当って行く方法を取らなければならないと思うんです。

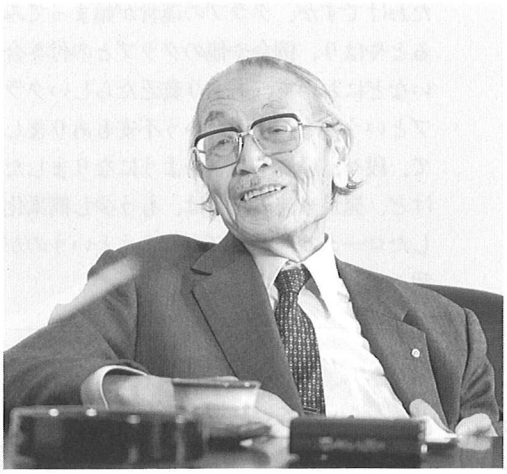
会費が安いし簡素化されているが、ロータリークラブ精神も簡素化するという訳には参りません。質素な運営をやっても、心の中まで貧しくなるといけないと思うのです。それだけは皆で啓蒙しながら、ロータリークラブ精神は高く持ち続けていきたいと思います。

チャーターナイトの頃

司会　いろいろないきさつがあって、手づくりのクラブとして、当クラブが生まれた訳ですけど、チャーターナイトの頃の思い出話を一つ…。創設期の頃、卓話に演歌が登場するなど、場違いの人が来て戸惑いましたね。

全員　そうそう、中洲のママさんなんかが登場して…。

新家　今から考えるとねえ、チャーターメンバーが多すぎたのかもしれない。



平野　実際は72名いたのですが、一応50名におさえた。

新家　それがね、私は後で考えたんだが、チャーターメンバーはやはり30名位にとどめておくべきじゃなかったかと。そうしないと新しい人の比率が多くなり過ぎて、うまく行かない。

だから今の演歌問題にしても、卓話者を連れてきた会員は、それが当然だと思っていたのかもしれない。

平野　創立の時の会員の平均年齢は、49.6才ですよ。あれから10年経ちましたから、平均年齢は59才…。

前田　いや、54才です、まだ…。まだまだ、若い。私達のクラブも年齢にギャップができましてねえ。今後会の運営が大変じゃないかと思うんです。

平野　古い会員が辞めるとき、僕はその理由を聞いたんですが、その方は、我々の年代には話し相手が少ないというんですね。

前田　私もその方から、同じことを言われました。そして、でも若い人が忙しくやっているからしょうがないなあと、おっしゃっていました。

平野　うちのクラブも、古い人達が若い人達をうまく指導して行かないとね。若い人達は若い人達でロータリークラブってこういうものだと思っていらっしゃるだろうから。

司会　いろいろご注文もおありかと思いますが、大塚さん、チャーターナイトの思い出を…。

大塚　チャーターナイトの思い出としては、何分新しい経験のないメンバーがそれぞれ目一杯の役割分担をしてやったんですが、レセプションが終わった時は本当にほっとしました。やはり平野先生の采配が非常によかったと思います。

会場が二つに分かれましたので、雨が降ったらどうしようかという心配もありましたが、アトラクションの天本さんの話が、スペインの話題を先取りしたような感じでよかったです。

全員　そうそう、あれは良かった。凄かった。

前田　あの方は平野先生の知り合いで？

平野　私の高等学校の後輩になります。

灰田　私はあの時まで、天本さんを全然知らなかったのです。でも若松出身ということを聞き、私も若松に住んでいたことがあるものですから、特に親しみを覚えました。

前田　大塚さんはあのチャーターナイトの時、登録、接待、広報委員長でしたね。

大塚　はい。受付とか案内とかいろいろやりましたが、こんな思い出もあります。私が引き出物を用意したのですが、会が始まりますと手元にすっかりなくなってしまいましてね。ところが、不足はしなかったのです。

全員　ほう！

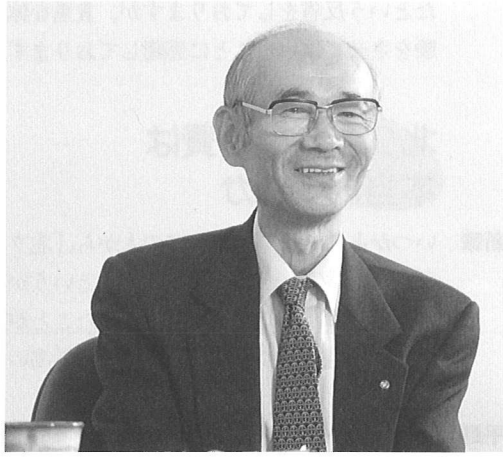
大塚　つまり、数はぴたりだったんですよ。まさに作ったような偶然だったのですね。

歩み始めて…

司会　大塚さんが会長なさった頃の思い出は？

大塚　新家さんや平野先生に立派な子どもをお産み頂いているものですから、そういう子どもを育てていくということについて、お役に立てなかったのではないかと反省しています。

クラブが産まれ落ちてから開発期と有閑期があると思うんですけど、有閑期を担当する会長は会社の管理と同じく、何か新芽を出そうと思って一生懸命やるわけですが、そういった面で私どもの時代は、宮崎幹事が機関車のように活動的で、いろんな案を出してくれました。



まず、アッセンブリーとか、クラブフォーラムの回数を非常に多くした時期じゃなかったかと思います。話し合いを活発化しようとはかった訳です。

親睦については、原鶴まで夜間の遠出を致しまして、これについてはいろいろなリアクションがありましたけれども、いろいろ新芽を出そうと努力したわけです。

記憶に残っているのは第14団のシニア隊の発団式に行って非常に感激したことでした。

また、出席率が98.98パーセントになり、第７位の表彰を地区大会で受け、その頃からクラブの出席率が上がって来たということもございました。

いずれにせよ私が会長させていただいたころの環境は、福岡市でもアジア太平洋博覧会が行われるなど、非常によい時代で、日本が生活大国として本当の豊かさみたいなものを追い求めた時期でした。

ロータリークラブはアメリカ型の組織ですから、トッフヘビーなリーダーシップを発揮しなきゃいかんところです。しかし、それになかなかお応えしていくことがなかっ

たという反省をしておりますが、貴重な体験をさせて頂いたことに感謝しております。

北クラブの会費は本当に安いか

新家　いつかあるクラブでシニアの人から、「北クラブは一番安い会費でやっているというが、本当は一番高いですね」といわれたことがある。一番安いつもりでいたら、一番高いんですね。

平野　そう、あまり安くないですよ。

前田　私、調べました。ある時、中央ロータリークラブの会長さんが、「前田さん。昔はあんたのところの会費が一番安かったが、今は高くなったねえ」という訳です。
それで僕、すぐ調べたんですよ。そしたらね、年会費が20万円を切ったクラブがいくつかありました。
福岡クラブが19万円。西クラブが18万４千

円。中央クラブは19万２千円。太宰府クラブが18万７千円。宗像クラブが18万円。あとは20万円か21万円ぐらいなんです。
わが北クラブは20万円だから、中央クラブから見れば高いですよね。
西クラブなどは会員も、百何十人もいるでしょ。どうしても会員が少ないところは高くなるわけです。
私は事務局の井上さんと一緒に、何故うちが20万円になったかを調べまして、段々分かってきたことは、ポリオプラスのキャンペーン中に９千円の会費を上積みしてそれがそのまま残っている。

平野　ポリオプラスの期間が終わっても取ってたの？

前田　取ってたんです。だから明らかに高くなっていたんです。だからうまくやれば18万円台になる。

平野　ポリオプラスの金はどこへ入っていた訳？

前田　全部、預金で残っているんですよ。

平野　募金の期間が終わっても取ったんじゃいかんよ。（笑い）

前田　そこで今度、会費は18万４千円にすることにしました。そういう訳で、つましくやるべきはずのクラブが実はそのあたりで、尻抜けになっていたというわけです。ここで一応、線は元へ戻したと思っています。だからこれからは、決して高いクラブじゃございません。

平野　しかし、そのように預金ができたということになると、委員会を作って金を活用するように考えていかなきゃいかんですね。

幹事経験者からの発言

司会　田中さんが会長をなさっていた時期の幹事が灰田さんですが、何か幹事として…。

灰田　クラブの中でもう少し、皆さんが同じテーブルについて打ち解けて話し合って欲しいという気がしますね。
ある例会の後、見知らぬビジターの方がおっしゃるには、「あんたのところは例会中に私語が多いな」と。そして、「あの人とあの人だ」と名指しで言われるのです。
また、テーブル会にも感じることがあります。例えば一つのテーブルだけでは５～６人程度ですから欠席者があれば成立しにくいので、２～３テーブル一緒にやるといいと思うのです。

またそのテーブル会につきましても、出席の約束をしておきながら来ないという人もいまして支払の際に出席者の負担が大きくなったりする。

前田　だから、最近テーブル会はあまりやらなくなったですねえ。

司会　上田さんは何か？

上田　私、まだ40代の人間ですが、うちのクラブには新家パストガバナーとか、平野特別代表とかロータリークラブの生き字引のような方がいらっしゃるものですから、大きなギャップを感じました。とてもあそこまでは及びもつかんという感じと、現状はこれでいいのかなあという気持ちの葛藤でした。

灰田　話は変わりますけど、今、事務局にファックスが入っているでしょう。会員の方にもファックスがあるし、連絡の仕事が本当に楽になりました。
私が幹事の頃、書類送って下さいって言ったら、取りに来いなんて言われましてね。遠い所まで取りに行ったことがありますよ。また、西鉄グランドホテルのなかにいくつかロータリークラブの事務所がありますね。あそこは車を置く場所がないもので、書類のやりとりに本当に困りました。今はファックスでやりとりできるんですからね。

前田　時代の流れですなあ。

北クラブ・思い出の人達

平野　ここで申し上げたいことがあります。亡くなられた第４代の田中会長が、福岡北ロータリークラブをつくるとき非常に努力してくださったことです。あの方は久留米のクラブにおられたのですが、福岡に仕事の本拠地があるんだから福岡のクラブにお入んなさいと勧めたわけです。すると本当に一生懸命、当クラブ設立の仕事をやって下さいました。
あの方も生きていらっしゃれば10周年が来るって喜んだでしょうけれども。
話は変わりますけど、福岡北ロータリークラブを作ろうという時、中牟田さんに「岩田屋から一人必ず出して下さい」と言いましたら、即座に「おります。大塚です」と言われましたね。

前田　大塚さん、よく勉強しておられますね。

大塚　いいえ、勉強しなければならないポストにつけて頂くもんですから…。（笑い）

前田　ポストについてもなかなかそこまで勉強できませんでね。

新家　やっぱり、紹介する人が大事だね。

前田　でも、だんだん世の中が変わるから、新しい人が見つからなくなりますねえ。

司会　他に退会された方や物故された方で思い出の方はありませんか。

前田　ここに鶴谷さんがおられたでしょう。伊藤忠の…。ゴルフは強いし、酒はよく飲むし。私みたいに頭が禿げて、元気のいい人だったけれども。

平野　うーん、惜しい人だったなあ。

前田　人混みの中でもあそこにいるというのがすぐ分かるもん。

平野　増田さんも惜しかったですねえ。あの人も真面目な人だった。

前田　それから画家の方がいたでしょう。絵を１枚描けば中洲で一杯飲めるんだよっていってた。

上田　私、飲ましてもらったことあります。

前田　あるある。(笑い)

平野　あの人だ。卓話に中洲の女性連れて来て、歌わせたりして。

前田　あれはもうほんとに困ったですねえ。

上田　卓話者を探すために自分は酒を飲んでいるんだとおっしゃっていました。

前田　それは方便だなあ。

上田　常盤さんはお元気でしょうか？

平野　一時、入院されたけど、今はお元気でいられるんじゃない。

クラブ運営の問題点

司会　お話も随分進みましたが、クラブ運営について反省点やこれらの課題などお聞かせ下さい。

上田　以前ライラに参加したとき、数人の方が一緒に参加して下さったことは今でも嬉しく

記憶しています。ロータリークラブというのは皆が参加しないとできないんだなあと当り前のことを痛感しました。

大塚　皆でやるということが一番大切じゃないかと思いますね。私は21世紀まで生きているかどうか分かりませんが、21世紀が生き甲斐の時代だとすれば、ロータリークラブの発想というのは、まさに生き甲斐に対応した組織みたいな気がするんですね。ロータリークラブが面白い、楽しいというだけの判断じゃなくて、皆で世の中のお役に立つというのが大きな生き甲斐でしょうから、それをみんなでやって行くことが充実感があるような気がします。

平野　新家さん、あなたは最近黙っておられるが、今日はっきりと福岡北ロータリークラブはどうあって欲しいか話しておかんですか。昔は新家さん、ロータリークラブのこと一生懸命話しておられたけど、今、黙っておられるところをみると、もう北ロータリークラブに絶望しているのではないかと…。

新家　半分はそうだよ。それとやっぱり、年齢的にも遠慮して。

平野　そんなことだったら、段々歳とるですよ。もう少し言うべきことを言わんと駄目ですよ。

新家　寝ているわけじゃないけどね。こっちの言うことはもうムリじゃないかと思う。

平野　流れが変わったですかね。私は新家さんとずーっと一緒にいますがね。アイアム・ア・ロータリーみたいな人が黙って来だすと心配です。

前田　僕らもそう思います。次元が低い人達に今更怒っても…と思っておられるんじゃないかと、僕も勉強せんけど、会長報告になんぼ書いたって一つもムードが盛り上がって来ない。
夜間例会やったって、出席率が60数パーセントあればいいほうでしょう。しかも時間が厳しいはずのロータリーアンが30分や１時間も遅れてやってくる。

平野　僕は思いますけどね、昔のロータリーというのはクラブの中に恐ろしい人がいたのですね。我々は今、歳をとりましたが恐がられていないものね。今は、恐い存在の人がいなくなっちゃった。

大塚　会社でも恐い存在がなくなりましたからね。

前田　例えばＳＡＡ自体が強さの象徴でなくなっちゃったでしょ。

僕が入った時などは、ＳＡＡが一番強いんだと、軍隊で言えば軍曹なんだと教えられました。今入会してくる人なんかは、ＳＡＡの強さなんか感じていないんじゃないですか。そういうところが、新家さんなどには次元が低く見えるのだろうな。

現在、ＳＡＡが会場管理するのに強さでやるなんてことはまずありえない。

灰田　そんなことしてたら嫌われるんじゃないですか。

平野　いや、嫌われんといかんのじゃないですか。

前田　ＳＡＡは嫌われ役なんだから。世界大会にいくと、ＳＡＡがホテルの部屋まで来て、欠席しないようにやかましく言う。それ程、権威のあるのがＳＡＡです。

新家　それから、ロータリークラブの活動はまずテリトリーが最初なんです。自分のテリトリーの中で社会奉仕をする。それが今はぼやけているでしょう。

平野　地域と密着していませんね。しかし、このロータリークラブも、まだどんどん変わって行くでしょうね。

新家　今までもずうっと変わってきた。

北クラブのこれから

司会　それでは予定の時間も参りましたので、特別代表にしめくくりを。

平野　今も申し上げましたように、時代の流れだからしようがないが、創設して10年経ちましたから、いろんなことを原点にもどして考え直して欲しいです。そしてできればロータリー精神だけはどこかで引き継いで欲しい。

ロータリークラブが烏合の衆になって、単なる親睦会になったんじゃ、時間が無駄だという感じがします。

歳をとった連中も少し努力せんといかんでしょうね。

前田　私は良いことならどしどし発言すべきだと思っています。やっぱり、ロータリーの精神の勉強会をやるぐらいのことを考えないと駄目でしょうね。

平野　話は変わりますが、新入会員が入ったときの宣誓式をやめたのは何故ですか。

前田　それがいろいろ意見がありまして。よそのクラブではやっていない。わがクラブもあそこまでやらなくてもなどと言う意見がありました。

平野　でもあれは、ロータリーの手続要覧に書いてありまして、それを北クラブでやり出したわけです。僕はいいことだと思ったんですがね。決して恥ずかしいことではない。ある程度、形式ばったことをやっても良いと思うんですけどね。

新家さんの意見は？

新家　手続要覧には「新会員のクラブへの入会式を厳粛に行う手続きは、各クラブが自クラブに合わせて考案しなければならない」と明記してある。はっきり、「入会式」と書いてある。

だから、それを言っただけで、いやならいやでいいから理事会で決めてやりなさい。やる、やらないまで干渉しないからねと言

ったんです。
ただね、他のクラブがやってないからやらんというのは理由にならんよ。そんなこと言うべきではないよ。

平野　そんなところから形式が崩れていきますからねえ。

新家　ロータリーはクラブの独立性を尊重する。一番大切なことです。

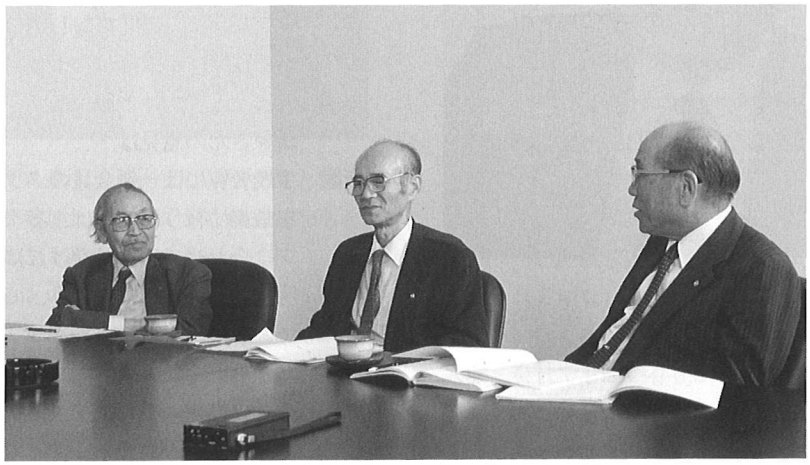
平野　まあ、いろいろ問題もありましょうが、時々、こういうふうにして語り合うというのはいいことです。若い人はできるだけ簡略化していこうと言う風潮がありますからね。

新家　僕は新会員も、入会のときには定款細則に対して関心を持たなくてはいかんと思いますね。定款細則を知らないではすまされない。それは許されないと書いてあるんだから。

大塚　新入会員に対するオリエンテーションを新家さんから引き継いで、ロータリー情報を使ってやっているんですけど、最近の入会者は皆さん、理解して頂けますね。私がお目にかかった方はきちんとしてるなあと思いました。

平野　私が入会した時は家内まで呼び付けられまして。１時間ぐらいオリエンテーションをやられましたねえ。やかましい人がおったよ。
会長は今の会員の人数についてはどのような考えを？

前田　今度、会員数の消長を調べてみたんですが、大体66～72人なんですね。そこで最小70人は確保したいと思っています。
だから70より減にならないようにしたいと思うんです。一時66名になりましたからね。なかなか70を１年間維持することは難しいようです。
そこで会員増強ということになるんですが、会員増強を叫ぶばかりでは仕方ない。やはり動いて頂かなければいけないことで、みんなでやらなければいかんのです。

司会　終わりになって核心に触れたお話が出て参りましたけど、北クラブのさらなる発展を皆様方にお願いして、今日の座談会を終わらせて頂きたいと思います。今日はどうも有難うございました。

〈終わり〉